



鷺の宮卓話

労作教育

太田敬雄

玉川学園で高校生として過ごした三年間の思い出に、「労作」がある。働くことを教育に取り入れた「労作教育」は「玉川のオヤジ」コト小原国芳先生（玉川学園創設者）が提唱した全人教育のコアとなっている。そのオヤジが「百聞は一見に如かずと言うけれども、百見は一労作に如かずだ」と繰り返しておられた。

私が高等部に入学して最初に経験した労作は建設予定の生物館の敷地を整地する作業だった。土を掘り、一輪車で運ぶ作業を労作の度に繰り返した。私は教室での授業は好きでは無かったが、この作業は楽しかった。出来上がった平地に基礎が打たれ、建物が建てられ、やがて生物の授業はそこに移っていった。

高等部卒業後のアメリカ留学中、数年間は家族のお世話になった。家の主は保険業界では大変著名な人だったらしいが、休日になると丸一日野良着で黙々と働くタフな人だった。家屋の問題なども自分で直すのが基本。それが建国時からのフロンティア精神を引き継ぐ生き

方だと知り、生活の中の労作教育を改めて考えさせられた。

帰国後直ぐに私は鹿児島に有った玉川学園の分校の教師になった。そこでは教師として同僚と共に労作を担当した。

新潟の敬和学園創設に当たり「労作」を取り入れることになり、週一回の労作の時間が設けられた。「労作」担当となって、私は生徒の良い学びとなる労作を準備することの大変さを思い知らされた。

敬和での労作の思い出はいくつも有る。毎月発送する『敬和』誌の発送、周辺に群生していた月見草の枯れ枝を使った雪除けフェンス作り等々。中でも自慢は入試の時に、生徒に担当させた「入試労作」だ。これはクラス単位の労作とは異なり、希望者を募って実施した労作で、聞けば50年経たこれは今も敬和で続いていて、希望者が殺到するという。

駐車場係、受付係、誘導係、連絡係などと役割も多岐に渡ったが、「選ばれた」という誇りは、生徒たちの素晴らしい面を引き出すこととなった。

多岐にわたった私の「労作教育」経験は、国際比較文化研究所の「多文化交流」の企画・運営を学生たちにゆだねる発想に繋がっている。人手が無からではなく、そこで生きる喜びを実感して貰いたいからなのだ。働く喜びを身につける教育的な活動をこれからも大事にしていきたい。

2024年度総会のご案内

2024年5月25日（土）14時～15時

今年の総会は昨年に続きオンライン(ZOOM)での開催といたします。正会員の皆さまはメール・LINEなどにて5月18日までに必ず出欠をご連絡下さい。

＜議題＞2023年度事業報告、2023年度会計報告、監査報告

2024年度事業計画、2024年度予算、役員人事、定款改定

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

【賛助会員、学生会員の皆様へ】総会の陪席や懇親会へのご参加も大歓迎です。

参加ご希望の方は5月18日までにご連絡下さい。

2月は寝食を共にする二つの多文化交流が実施されました

それぞれの参加者・スタッフなどの声を拾ってみました

多文化交流 in ぐんま 2024 冬 (2月9日～12日：安中市の学習の森で実施)

参加者：上原珠佳 高崎商科大学

多文化交流会 in 群馬では、様々な国の人たちと交流することで、新しい文化や考え方を学ぶことができ、自分自身の視野がさらに広がったように感じます。伝えたい言葉がわからないときにお互いにジェスチャーで表現してみたり、調べて画像を見せあったりしてコミュニケーションを取る機会も多く、多文化交流会だからこそその行動だなと思いました。



今回の交流会を通じて国境を超えた友情や理解を深めることで改めて「人と出会うことの楽しさ」を感じることができ、とても貴重な経験となりました。これからも色々な文化に触れていきたいと思います。

たくさんの楽しい企画を考えてくださったスタッフの皆さんのおかげで素敵な交流ができました。本当にありがとうございました。

参加者：アイジャンこと Aizhan Mamazhanova Nippon 語学院 キルギス出身

私は今年の2月にあった多文化交流に参加した。とても満足しました。3日の毎日楽しかった。スタッフたちもやさしくて、おいしいごはんすくってくれた。ホームステイのおやからお世話になりました。いろいろな遊んだ、話していいけいけんがあった。その3日のあとかならず次回も来ると決めることにかんじた。



スタッフ：廣野広太郎 共愛学園前橋国際大学

2度目の多文化ぐんまは初めてスタッフとして参加しました。昨年11月からの準備期間はとにかく必死で、本番が近づくにつれて不安が大きくなる日々でしたが、今では準備から本番まで全てが良い思い出として記憶に残っています。4日間という短い間でも参加者全員と国を超えた交友関係を持つことができ、みんなで一緒に楽しんだ時間全てが一生の宝物です。スタッフ全員、今回の多文化交流も大成功だったと胸を張って言うことができますと思います。そして、スタッフのみんなはもちろん、参加者や食ボラさんなど、多文化交流という素晴らしいものを共に作り上げた全ての方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。この多文化交流が未来永劫受け継がれることを願っています。



ホストファミリー：大谷ファミリー 安中市

我が家には、台湾・韓国・シンガポールから三名の方がホームステイに来てくれました。海外の方を我が家に受け入れることは初めてという事もあり、正直様々な不安はありましたが、最初の対面で皆打ち解けられて、その瞬間から家族のように接することが出来ました。僅か一泊の短い時間ではありましたが、皆と一緒に温泉に入ったり、草津に遊びに行ったりして、楽しい思い出を作ることが出来ました。また、我が家にて夜中の二時くらいまで皆で飲みながらそれぞれの国のことについて話をし、彼らの文化に触れることが出来ました。何よりも、我が家の十八歳の息子が今回の交流の中で初めて海外の文化に触れ、興味を持ってくれたことは刺激になったと思います。今回の交流自体は短い時間でしたが、その中で連絡先も交換し、その後のグループ交流も続いています。

機会があれば、彼らの国にも訪問してみたいと思うようになりました。今回の機会を頂けたことに感謝します。



多文化交流 in インドネシア・マラン 2024

参加者 野田騎希 都留文科大学

多文化交流 in インドネシア・マランでの7日間の生活は毎日が新しいものとの出会いでした。日本側の学生スタッフ、参加者に知り合いがない不安を持ちながら参加しました。皆さんが気さくに話しかけてくれたことですぐに打ち解けることができました。私自身、人見知りなのですが、最後にはこんなにも初対面の人と仲良くなったことに驚いています。また、インドネシアの衣食住の文化を見て、実際に体験したことでインドネシアを知ることができました。マラン側のスタッフ、参加者、OBOGの方と話すことで普通の観光ではできない経験をすることができました。



この新しい出会いを大切にしていきたいです。

多文化交流に関わる全ての皆さん、本当にありがとうございました！これからもよろしくお願いします。

マランスタッフ アキル・ガマ・ラフマンシャ ブラウイジャヤ大学

IIMSに参加したのが昨年からで、一週間を通しての多文化交流は今年の「多文化交流 in Indonesia Malang」が初めてでした。

最初はすっごい楽しみを抱きながらも、自分の中での日本人は「遠慮しがち」というイメージがあり、日本人と交流ができて嬉しいながらも正直多文化交流が終わっても関係が続けられるとは期待していなかったです。



——が、そのイメージは崩されました。今回の日本人の参加者と出会え、一緒にテーブルを囲んでインドネシアの料理に舌を鳴らし、歩きながらインドネシアの文化を教えたり、逆に日本・韓国の文化を教わり、夜遅くまで他愛もない話をし、共にワイワイ遊び、バカな事で一緒に笑い、いたずらをしあい… 一週間があっという間に感じてしまうほど、楽しくて楽しく仕方がなかったです。自分の国に対してこれほどの関心を持ってくれたのは嬉しいし、年齢関係なく何もかもと一緒に楽しめた… これが何よりも嬉しいです。この友好的な関係が、「多文化交流」が終わった今でも続いているのが本当に嬉しいです。

「多文化交流」の目的は「世界平和」だと聞きました。イベント中はそれについて何も語らなかったし、僕からも語ろうとは思っていませんでした。でも僕はこの「多文化交流」で「平和の欠片」を感じました。国、種族関係なく友達になり、その関係がいつまでも続き、久々に会えたときには「会えて良かった」と言い合える。それが「平和」の一部じゃないかなと僕は思う。

こんな素敵な素敵な機会を作ってくくださったIIMSの皆さん、そして太田先生には深く感謝しています。これから大学が忙しくなると思いますが、「交流会」があればまた顔を出してみたいなと思っています。いや、会いに行きます。

多文化交流 in ぐんま 2024 冬 スタッフ・参加者など：

スタッフ：9名（群馬県立女子大学、共愛学園前橋国際大学、慶應義塾大学の学生達、IIMS職員）

参加者：24名（高崎商科大学、日本大学、高崎商科大学短期大学部、群馬大学、群馬県立女子大学、日本体育大学、NIPPON語学院、高崎経済大学、釜山外国語大学の学生達、他に社会人）

まなばるキッズ（2月10日）キッズ17名、スタッフ2名

食事ボランティア：11名（共愛学園前橋国際大学、育英短期大学、高崎経済大学、高崎健康福祉大学の

OB/OG）ホストファミリー（2月10日午後～11日夕方）：安中、高崎、富岡、沼田の計11家族

多文化交流 in インドネシア・マラン 2024 多文化交流 in インドネシア・マラン実行委員会主催

スタッフ：マラン事務局 菅ヶ谷マコ・多文化交流コーディネーター 松原雄斗、マラン5名、日本1名。

参加者：13名（日本4名、韓国1名、インドネシア8名）

「ひげじいを囲むかい」のご案内 及び「ひげじいの Going my way」配信について

昨年10月から11月にかけて開催したオムニバス講座「ひげじいの Going my way」。毎回好評でした。お話を繰り返し聴きたいとのご要望があり、ご希望の方に全4回分のアーカイブの配信を行います。

また、開催中から「4回で終わるのは残念、もっと太田敬雄先生の話が聴きたい」との要望に答えて4/24(水)に「ひげじいを囲むかい」を開催することに致しました。特にテーマは設けません。ひげじいを囲んで、楽しいひとときを過ごしませんか。

* 「ひげじいを囲むかい」4/24(水) 20:30~22:00(日本時間) * 全4回分のアーカイブの配信
お申込はこちらから。 <https://forms.gle/YN27T961482k8Vmm9> 申込締切は4/17(水)です。

オムニバス講座スタッフ一同

「友達の輪が目指す平和な地球社会創り」

今の時代は、この活動を増々求めるようになっていきます。皆様に支えられ、使命感を持って、これからも「多文化交流活動」「オムニバス講座」を始め、諸々の活動を力強く進めて参ります。

会費及びご寄付のお振込みについて：

【クレジットカードによる手続き】

下記QRコード、もしくはIIMSのホームページからアクセスして頂き手続き・ご登録ください。



研究所 (IIMS) のホームページ
<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

【振込用紙による手続き】

郵便振替口座：加入者名 国際比較文化研究所
口座番号 00510-1-61974

ニューズレターを郵送させていただいた皆様には、振込用紙を同封させていただきます。これは請求書ではなく、一律に皆様にお送りしているもので、すでに会費をお振込み下さった方にもお送りしています。

メールでニューズレターをお送りしている方々には振込用紙をお届けできません。特に会費の請求はお送りしておりませんが、郵便局の振込用紙、もしくはカードでお振込みくださいますようお願いいたします。

ご入会状況及び会費・寄付振込状況 (23.11.21~24.3.30.)

カード振込は (22.11.1.~23.2.29.)

会費やご寄付のお振込み、有難うございます。皆様に支えられて2024年度に向かいます。

会費のカッコ内は年度。カッコ無しの氏名のみは2023年度会費。敬称略

賛助会員入会：中町文彦、野口周一(24) 学生会員入会：鷹野広太郎、新井範佳、高島颯太、Mamajanova Aijan、Ventura Pereira Rodrigo、

正会員会費：村田元(24)、賛助会費：小林久子(24)、水木健一、太田知子 (23,24)、佐俣由香、伊藤優子、李孟蓉、野口周一 (24)、前田浩、

一般寄付：小林久子、坪井教由・明子、太田知子、佐俣由香、イエスの友会、前田浩、

多文化交流寄付：木暮道子、太田知子、菅ヶ谷由美子、梶山拓弥、

毎月寄付：ファン翠、樋本達之、根岸大輔、Rosdiana Febrianti、藤本恵大、内野春香、片岡謙。

編集後記：◎2023年度最後のNewsletterが一ヶ月も遅れてしまった。3月中に発送できるようにすべての原稿は集まっていたのに、私の不手際で遅れに遅れてしまった。その結果、「ひげじいを囲むかい」の案内も間に合わず。

◎ホームページをリニューアルに、何人かの有志が頑張ってくれています。出来上がりが楽しみです。

◎ジャガイモ、エンドウ豆、カボチャ、アスパラガスと若い命が庭に溢れて成長中。タケノコの収穫は今が盛り。次は桑の実でしょうか。(敬)

発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3
電話：027-382-5998 FAX:027-382-6393
研究所：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>
メールアドレス：iims.since2000@gmail.com
まなぱる：<https://www.manapal.jp>
メールアドレス：mail@manapal.jp
郵便振替口座：加入者名 国際比較文化研究所
口座番号 00510-1-61974